

# 自治会等における地域活動のデジタル化実証事業の概要（令和5年度）

## 自治会等の地域活動のデジタル化に関する課題

- 自治会等の地域活動のデジタル化の必要を感じているものの、多くの自治体が、**具体的な取組や支援に至っていない**。
- 自治体からは、「**効果的な分野や手法が分からない**」、「**好事例を共有**してほしい」といった意見がある。

## 実証事業の概要・目的

- 地域活動のデジタル化の推進に向け、電子回覧板等の機能を有するスマホアプリ（地域交流アプリ）を自治会等で活用する実証事業を実施。
- 自治会活動の基盤となる**情報伝達手段に地域交流アプリを導入することの効果**や、地域活動のデジタル化を進めていくための**自治体による効果的な取組を整理**し、全国の自治体に周知。

## 1. 事業の実施状況

事業期間：令和5年4月～令和6年3月（アプリ利用：10ヶ月間）  
事業参加団体：10市町、51自治会 アプリ登録者数：3,409名  
情報配信回数：1,609回（1自治会あたり平均32回）  
閲覧回数：136,682回（1自治会あたり平均2,680回）

## 2. 事業の成果

### 情報伝達の迅速化・効率化、内容の充実

#### ➤ 回覧頻度の増加や回覧所要時間が短縮

- 紙回覧：月1～2回程度 ➤ アプリでの情報配信：月平均5.3回
- 回覧期間：2～4週間 ➤ 配信から2日以内に半数が閲覧  
7日以内に8割の人が閲覧
- 閲覧状況を可視化し住民の関心度を把握することで、より充実した情報提供につながる

### 地域活動の担い手の確保

#### ➤ 多様な世代がアプリを活用。未加入者が加入する事例も確認

- アプリの登録状況：30～50代が6割超。70代以上の登録も17%
  - 日中に仕事をしている世代も、自治会等の活動に関心が高まる可能性
  - 高齢者でも比較的ハードルを感じずに利用可能

### 自治会役員の負担軽減

#### ➤ アプリの利便性を実感。実際の運用には工夫も必要

- アプリの利便性：活用した自治会等の約8割が、電子回覧が「便利である」と回答。今後も「自治体からの情報をデジタルで受け取りたい」と回答した自治会役員は約45%
- 紙回覧の継続を希望する声も一定程度あり、運用面での工夫も求められる
- 準備に5時間程度要する紙回覧に比べ、事務の効率化に繋がるといった意見もあった

## 3. デジタル化推進のためのポイント

準備期

### ① 地域活動のデジタル化に向けた検討【ポイント】

- ・自治会等の課題把握、先行事例の研究
- 【参考となる取組】
- ・自治体の計画における明確な位置付け、自治会アンケートの実施、民間事業者へのヒアリング

実施期

### ② 推進体制構築、デジタル化の実施【ポイント】

- ・関係者間での推進体制の構築、デジタルツール活用支援
- 【参考となる取組】
- ・関係者間の意見交換の実施、好事例の共有、自治会役員のICTリテラシー向上施策の実施、連合自治会への協力依頼、若い会員へのサポート依頼

継続検討・定着期

### ③ デジタル化の定着【ポイント】

- ・デジタル化の効果測定、改善事項の共有、定着化支援
- 【参考となる取組】
- ・活用状況データの分析、会員の意見吸い上げ、デジタル化支援にむけた庁内の部局横断的な調整、ICTリテラシー向上に向けた継続的な取組